

■演題4 術後の機能維持を目指した早期胃癌に対するNEWS+ センチネルリンパ節流域郭清の試み

代表演者：後藤修 先生（慶應義塾大学医学部腫瘍センター）

共同演者：〔慶應義塾大学医学部腫瘍センター〕佐々木基、飽本哲兵、藤本愛、落合康利、前畑忠輝、西澤俊宏、矢作直久

〔慶應義塾大学医学部一般・消化器外科〕竹内裕也、北川雄光

【目的】リンパ節郭清を伴う胃癌縮小手術が術後の胃の機能を十分に維持しうるかについての検討を行った。

【方法】2015年9月までに4cm以下のcT1NOMO単発胃癌に対して非穿孔式内視鏡的胃壁内反切除術(NEWS)＋センチネルリンパ節流域郭清(SNBD)を施行し、6カ月以上の経過を追えた7例における胃切除後障害の有無、術後体重変化および内視鏡所見について検討した。

【結果】平均年齢61.9歳、男/女：5/2例であった。全例で手技を完遂し、重篤な偶発症を認めなかった。占居部位はU/M/L：5/2/0例、郭清したリンパ流域はt-GA/r-GEA：6/1例であった。全例で明らかな胃切除後障害を認めず、術直後は体重が平均1.7kg減少したが、観察期間13.7ヶ月後の時点では平均0.7kgの減少に留まった。術後平均11ヶ月目のフォローアップ内視鏡においてごく少量の食残を3例に認めたものの、観察に支障をきたすことはなかった。全例で無再発生存中である。

【結論】最小限の切除範囲で根治切除が望めるNEWS+SNBDは、胃術後機能障害をも最小限に抑えることができる理想的な縮小手術である可能性が示唆された。